



The Y's MEN's CLUB of もいおか



<VOL137.2019.5>


もりおかクラブ事務所：〒020-0804 盛岡市本町通3丁目1-1 Tel 019-623-1575 盛岡YMCA内
盛岡YMCA HP <http://www.ymcajapan.org/morioka/> 検索エンジンワード「盛岡YMCA」

「主題」

国際会長	Moon Sang Bong (韓国)
アジア太平洋地域会長	田中 博之 (日本)
東日本区理事	宮内 友弥 (武蔵野多摩)
北東部長	涌澤 博 (仙台青葉城)
もりおかクラブ会長	三田 庸平

「私達は変えられる」
「アクション」
「為せば、成る」
「チャンス到来、我ら北東部から世界へ」
「繋がりを大事に、見据える世界の扉」
副題「ワイズの明るい未来を見つけましょう！」

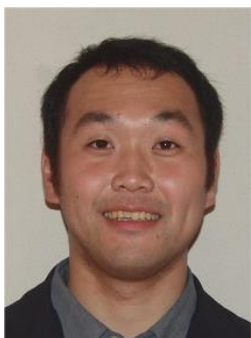
今月の聖句 申命記8章17節

 「あなたは、「自分の力と手の働きで、この富を築いた」などと考えるはならない。」

会長	三田 庸平
副会長	長岡 正彦
書記	濱塚 有史
会計	大関 靖二
担当主事	浅沼 慧 (しどう)
	中村 渉 (チャン)

6月定例会のご案内
日時 令和元年6月8日(第2土曜日) 18時30分
場所 盛岡北ホテル1F。 会費 2,000円
第二例会、6月14日(第3金曜日) 18時30分より 各自
場所 じょ居(駅前通り)

三田会長巻頭挨拶



三田会長

令和最初の例会となりました。屋間は暑く、夜は涼しくなるという気温の差が激しい日が続いております。盛岡も夏に向けて暑さが増してくると思うと辛いです。

岩手山の頂上付近に残る雪と青空が美しく見えており、癒されています。

これからの時期は慌ただしく色々な行事がありますが、あっという間に過ぎるくらい楽しめればと思っております。盛岡からも東日本区大会・アジア太平洋地域大会に参加致しますが、多くの方々と交流できるのを楽しみにしております。この時期は脱水になるのが一番怖いですが、もりおかクラブのメンバーはたくさん水分を取り(お酒も含み)様々な行事に向かいたいと思っております。まもなく1期目が終わろうとしていますが、2期目に向けて準備をしながら頑張っていきたいと思っております。

5月定例会の報告

令和元年5月10日(金) 盛岡、北ホテルにて開催、参加者、三田会長、井上、大関、井上優子、山口、魚住、中原、濱塚、千葉、(敬称略)。ゲスト、安恒史織さん(レモンリーダー)、吉田莉那さん(アグリーダー)、石川万里子さん(ジーコリーダー)、以上12名の参加で開催されました。

5月は会場の関係で金曜日開催となりました。令和になり初めての例会。各献金の内訳の確認と献金の内容についての確認をして皆さんの承認を頂きました。また、東日本区大会とアジア太平洋地域大会の参加者の確認を行いました。移動手段等の確認も同時に行いました。



5月定例会集合写真です。

宇都宮ワイズメンズクラブ 40周年記念式に参加して
2018～2019年度メネット委員長 井上 優子



井上優子メネット

2019年5月18日もりおかクラブを代表してお祝いに伺いました。受付でメネットの皆さんのいつもの満面の笑顔に迎えられお手製のお土産を頂戴し、会場入りし、着席。石巻広域クラブ清水メン、仙台 YMCA 総主事村井様と会話を交わし、式典開始を待ちました。上野メネットの司会にかつてメ

ネットが北東部長を務められた時、ご夫妻で議事を進めていたことを懐かしく思い起こしました。本当におしどり夫婦とはお二人のことを指すのだと思います。感激に浸っておりますと「〇〇クラブ様よりご祝儀を頂戴いたしました。」で我に返

りました。クラブよりのお祝い金をお渡ししていなかった事に気づき、たぶん顔は青ざめていたことと思います。(式典終了一段落したところでお渡しはしたのですが、お恥ずかしいことでした。) 40年前32名で出発したクラブメンバー数は現在も同じ32名とは…。現在在籍のチャーターメンバー3組への感謝には宇都宮 YMCA(現とちぎYMCA)を設立し、そのYMCAを支えるワイズメンズクラブを必死で立ち上げたことへの深い感謝の思いが感じられました。また、その熱い思いが強力な協力者を巻き込み新たなワイズメンズクラブ、YMCAを立ち上げることに繋がっていき、40年を経た今も活動を継続していることに改めて敬意を表したい思いでした。

300ページを超える記念誌にそれらの記録が載っています。圧倒されることばかりでした。

「フリテン盛岡DAON」

もりおかクラブの状況報告

5月の出席率	9/14	64 %	ゲスト3名	ビジター	メネット名
メーキャップ	1	名		5月切手	15 g 累計 348 g
5月のにこにこ	9,400	円 累計		5月プルタブ	0 g 累計 22,350 g
5月 石鹸	0	円 累計	3,610 円	りんご	0 円 累計 17,010 円
5月 献金	0	円		ファンド合計	17,010 円

会費の納入をお願いいたします。岩手銀行 松園支店(店番号 082)普通口座 2145674

もりおかワイズメンズクラブ 会計 大関 靖二

5月のハッピーバースディ 5/27 長岡 五咲子メネット お誕生日おめでとうございます。

岩手日報特集連載記事に盛岡 YMCA 登場

東日本大震災後の復旧が進み、各地で立ち上がったボランティア団体の活動拠点が閉鎖して行く中、続けている団体、個人を岩手日報が「縁」というタイトルで特集連載をしています。5月14日の第52回目の特集に盛岡 YMCA の活動が掲載されました。

記事の内容は震災後の「宮古ボランティアセンター」の開設から「宮古を愛する子供たちの育成事業」の立ち上げ様々な活動を行ってきましたが、今回の記事では「宮古サッカー教室」の活動内容が多く記述されています。同事業の参加者だった当時の小学生が大学生になり学生ボランティアとして YMCA の活動にカムバックした事なども記述されています。スタッフ、向平悟さん(ジーパン)、総主事、濱塚有史さんも笑顔の写真と共に紹介されています。この宮古サッカー教室は、1年の締めくくりの盛岡 YMCA チャレンジカップサッカー大会



で2連覇を果たすなど最近成長が著しく、盛岡の各サッカー教室のチームも「打倒宮古」と本気で取り組んでいます。

濱塚総主事、向平さん(ジーパン)もすでに「被災地の子供」という意識は無く、ただ子供の成長を願い、また地域の活性化を願って活動を続けています。

濱塚総主事のコメント「沿岸部では進学や就職で若者が出ていくためなのか、学生ボランティアとの触れ合いをとても喜んでいる印象があります。サッカー教室は選手育成ではなく

子供たちが同じ時間や場所を共有することを意識しています。運動神経や体格、文化など人の違いを乗り越えて行く経験はグローバル化する社会でも生かされていくと思います。他者の悲しみや喜びを共感できる力、これは被災地で有ることを問わず社会を生きる上で基礎的な力になります。支援されていた子供たちが成長して、支援する側に回るなど、好循環が生まれています。今後も現地ででの出会いを大切にしていきたいです。」

盛岡 YMCA 会員総会開催

ビリケン&マックス インドスタディキャンプの報告



ビリケンです マックスです

インドスタディキャンプの報告をさせていただきます。尾河芽生さん(ビリケン)、東彩由海さん(マックス)の二人が盛岡 YMCA を代表して参加しました。このキャンプは日本 YMCA

同盟の主催で南インドの都市バンガロールと農村のカニヤクマリに滞在して人々との出会い、異文化の体験、差別や貧困、社会的課題について学び、自らの生き方を考えるというものです。南インドを半周する移動は過酷なものでした。全12名の訪問団で、内丸教会の中原陽子牧師が団長として一緒に参加いたしました。20時間かけてバンガロールに到着、ここで4日過ごしました。IT産業の発達で今は大都市ですが、同時にスラム街やストリートチルドレンが存在し問題を抱えています。SCMI(スチューデントクリスチャンムーブメントインデア)という施設に滞在しました。インド社会のレクチャーでカースト制度は今だに存在しているとのことでした。(ガンジー首相の時代に廃止されたはずでしたが、...)ストリートチルドレンは裸足で花を売っていました。普段 YMCA の活動で関わっている子供たちと同じ年齢の子供たちです、衝撃的でした。ユナイテッドミッションスクールでは高校生との交流です、ビリケンとマックスは女の子達と現代のインドの事を聞きました。バンガロール YMCA では貧しい子供たちが共同生活しています。スラム街の子供を保護しています。スラム街ではゴミのインクの芯から薬物中毒になっている子供がいるようで、保護してリハビリ、職業訓練のあと社会復帰まで行っていました。ハンセン病の療養施設に訪問しました。CM で発症した患者さんは施設に入所することを勧めていて治療の後社会復帰を支援しています。日本であった差別的な隔離とは違います。

バンガロールからカニヤクマリまで寝台列車で移動しました18時間の旅です。あまりにも暑くて、マックスは熱中症、牧人は食中毒で苦しみました。ビリケンも同乗者たちと楽しく交流しました。カニヤクマリはインド最南端の小さな村です。滞在したお家が可愛いピンクの家だったので、ピンクシャツディにちなみピンクの服を着て写真を取りました。マザーテレサランチを訪問しました。障害者と修道士が共同生活をしている施設で、地域の方々からの食料支援を受けて運営できているとのことでした。カニヤクマリ YMCA ではミシンの訓練、バナナの葉を使った民芸品を制作、地域活性に貢献しています。この地域ではハチミツ作りを昔から行っておりましたが、製品として販売するノウハウがあり

ませんでした。そこで YMCA が製品として販売するためのハチミツ作りを指導して地域の活性化に貢献していました。

そして、トリッチーへ。南インドの地方都市です。ショッピングセンター等がたくさんあります。孤児院を訪問しました。240人の子供たちと礼拝をしました。ここでの交流も感慨深いものがありました。

次はチェンナイ。セントボニファスアンバナムという孤児院に宿泊しました。5時半に起床、6時半からピーナツの収穫作業があります。礼拝と収穫をサポートした男子の参加者はご褒美のチャイをもらえませんでした。動物園のワニときれいな鳥たちに感動

しました興味深かったのは州ごとに、文化が違ったり家の作りが違ったり同じインドでも気温も違うし、暮らしも違うことに驚きました。カルチャーナイトで陽子さんが張り切って作った芋の煮ころがしが好評で美味しかったです。(醤油や砂糖はあったのかな?) この施設がなかったら、この子供達はストリートチルドレンでいたでしょう、教育も受けられず未来は閉ざされるしかない。との話に施設があつてよかった。と感じました。

私達は、インド滞在中体験を聖書の言葉と照らし合わせるため聖書研究を行っていました。

マックスです。感じた事、考えた事をお話します。ストリートチルドレンが衝撃的で、盛岡 YMCA の子供たちと同じ

年代の子供たちが花売りをしているのです。引率の方からはトラブルになるから話をすると言われていました、心が痛かったです。お話を少しのお金を渡したところで何になるのだろう? 自問していました。メンバーの1人が兄弟のチルドレンにお金を上げました、その子供たちはお菓子を買って食べていました。お金をあげる行為がこの子供たちにとってためになったか、メンバーの考え方がいろいろありあの子供達は感謝している、手を振って帰ったでしょう。この行為はとてもちっぽけなことだけど、ゼロではない。他のメンバーの意見を聞いて考えました。そしてここでも感動しました。孤児院で暮らしている姉妹の夢は医者と先生になることでした。教育を受けていますからストリートチルドレンにいるよりは可能性はあります。夢を与えている施設、私は盛岡の子供たちに夢を与えているかな? 何より、自分はどうなんだろう、といま考えています。

ビリケンです。男の子たちとサッカーをして遊んで、楽しくてしかたありませんでした。ハイテンションで夢中になる私達と子供たちは、盛岡 Y も子供たちと遊んでいる私となにも変わらないと感じました。違うのは背景にある環境だけです。現実を知ってしまったあとでは、逆にこの子供達から勇気もらっていると感じました。孤児院は財政的に困難を迎えれば閉じると言っていました、私はなにができるのだろう。自問しても答えはありません、何に葛藤しているのだろう。今も考えています。



東日本大震災後アーカイブス 2012年5月掲載

大槌北小学校は復興商店街になっています。

大槌町は町の行政設備、中心商店街、住宅、学校がほとんど津波で流され町として再建するのがとても困難な状況でした。特に、地震後役場前に災害対策本部を立ち上げ、町長以下役場の幹部職員が会議を行っているところを津波が襲い多くの役場職員がその命を絶たれました。完全に町の機能を失ったのでした。残った役場職員は不眠不休で住民サービスを再開しましたが、困難を極めておりました。自身も被災者で家族を失っているにも関わらず、支援物資の分配や住民からの要請にこたえようと必死に頑張っている姿を報道番組で見るにつけ、涙が止まりませんでした。



この校舎は被災後閉鎖しています。

大槌北小学校を訪ねてきました。この学校は、長岡の二男が小学校時代3度訪れ野球の大会に参加しました。優勝1回、3位2回でした、いま思えば住民一体で大会を支え、お客様としておもてなしを受けた事が懐かしく思います。校庭には仮設の商店

そんな大槌町も時間の経過とともに、復興への歩みが始まっております、町内5つの小中学校は運動公園に仮設校舎が完成して授業が再開しております。

街が並び、経済活動の中心となっております。5月という事で、鯉のぼりを建物や校舎に飾り、応援ありがとうのメッセージとともに五月の空に向かって泳いでいました。

役場のコンピュータも当然流されたのですが、サーバーが庁舎内で見つかりハードディスクからデータの取り出しに成功したとの一報を聞いた時は嬉しさが込みあがりました、被災コンピュータと格闘していたのは自分たちだけではなかったと、拍手を送りたかったですね。市街地はずいぶん片付きましたが、瓦礫は



港の空き地に山積みです、この状況も他の被災地同様処理が追いつかずにいます。気付いたのですが、土の山がありました。何だろうと調べてみると、木くずやコンクリートを分別した際に出てくる泥だという事です。泥がついたままだと最終処分を行えないということで土の山になっているという事でした、これは瓦礫の総量を計算した時の想定外で、新たに発生した瓦礫ということでした。塩分が含まれているためどうにも処分しようがなく、頭を悩ませているという事です。知恵を絞ってなんとかしなければなりません。

緑の街の夜明け、姫神山のシルエット

爽やかな季節がやってきました、盛岡の5月は緑の風が吹き抜けます。乾いた風に運ばれる藤の花の香り。見上げれば陰りの無い雲、残雪の岩手山。一年で一番爽やかな季節です。

夕暮れの岩手山のシルエットも素敵ですが、夜明け前の姫神山のシルエットもまた素敵でした。



5月30日、夜明け前の岩山公園に行ってみました。朝日を浴びる盛岡はどんな風景か、見たかったのです。姫神山から右に視線を向けると、そこには一足先に月が昇っていました。下弦の月です。なぜか船に見えました。とすれば、この空は海か。20年以上前、「空が一面海に見えた日」という歌がありました。この歌も5月の季節を歌っていたな。頭の中を、いろんな事が浮かび、消えていく。これも、早起きした5月の朝のおかげでしょうか。

草花は、確実に移ろい変わっています。今、マーガレットは満開、あやめも咲いています。初夏を彩る草花です。



あやめです。



マーガレットです。

編集後記

5月30日、午前9時40分。ブリテンが完成しようとしています。ついさっきまで岩山の夜明けをみていました。実は、盛岡探索の取材も記事もできていなかったのです。ギリギリで書き上げました。「空が一面海に見えた日」という歌は、麗美(れいみ)という歌手が歌っていました。YouTubeで検索すればまだ出てきます。一度聞いてみて下さい。

被災地大槌町はこの春まで、被災した役場庁舎を遺構とした市民と、解体して街作りを勧めたい行政が、裁判までして方向性を決めかねていました。判決は、解体で決着。どちらの意見も納得できるものでしたので、第三者の私はなんとも複雑な気持ちでした。

インスタディキャンプの報告を聞きました。市民に「あなたのカーストは何でしょうか？」と聞くのはご法度なんだとか。法律でカースト制度は廃止されたとはいえ、根深く残っているのだと感じました。今の日本の現状がどれくらい幸せなのか、よくわかりました。

盛岡 YMCA の取り組み高評価されたことは非常に嬉しい限りです。各団体のボランティアセンターは3年のうちに撤退していきました。宮古ボランティアセンターも閉鎖しましたが、活動は継続しています。YMCA の理念は素晴らしいものがありますが、それに従い継続していくことがどれほど大変なことか、それを当然の事のように継続している盛岡 YMCA の活動に敬意をはらい力の限り応援して行こうと思います。 長岡